



終戦記念日に思う

理事長 森 勉

今年の8月15日の終戦記念日、コロナ禍で制限された中ではあるが政府主催の全国戦没者追悼式が武道館で執行されると共に、これに併せて全国で多くの国民が正午に黙禱し先の大戦で戦死・戦没した人々に哀悼の誠を捧げ平和を祈念した。これとは別に、靖國神社や各県の護國神社等では関係諸団体主催の各種行事等において明治以来国に殉じた英霊の慰霊・顕彰が厳粛に行われた。

昭和16年冬、支那事変に引き続き米英等と開戦した大東亜戦争は昭和20年夏極めて困難な戦局となり、連合国は7月26日ポツダム宣言を發し無条件降伏を要求、8月6日広島を原爆攻撃、8月8日中立条約を結んでいたソ連が対日宣戦布告、8月9日長崎を原爆攻撃した。8月10日わが国はポツダム宣言受諾を決定し、ラジオ放送等で国外に表明し交戦国等には直接通知した。8月15日正午天皇陛下は玉音放送でポツダム宣言受諾を全国民及び陸・海軍に諭旨され戦闘行為は停止、9月2日東京湾の米戦艦ミズーリ号甲板上で休戦協定が調印

された。ソ連のわが国領域への侵攻は9月5日に停止した。昭和27年4月28日サンフランシスコ講和条約が発効し連合国の占領支配が終わりわが国は主権を回復した。

わが国の長い歴史上、対外戦争は7世紀飛鳥時代朝鮮半島南部における百濟復興のための唐・新羅連合軍との白村江の戦い、13世紀鎌倉時代北部九州への元・高麗連合軍の侵攻を撃退した文永・弘安の役、16世紀豊臣政権による朝鮮半島における明国攻略のための李氏朝鮮・明連合軍との文禄・慶長の役、明治以降の日清戦争、日露戦争、満洲事変、大東亜戦争等であった。江戸時代までの千年を超える長い間対外戦争は殆どなかったが、明治以降の約百年間は欧米列強から独立を守るための戦争の世紀とも言うべき特異な時代であった。

昭和57年政府は8月15日を「戦没者を追悼し平和を祈念する日」とすることを閣議決定し昭和38年以降実施されていた全国戦没者追悼式を継承し現在に至っている。一方建国以来国に殉じた兵士の英霊の慰霊・顕彰が公には実施されていない現状には慚愧の念に堪え難い。わが国が千数百年継続しているというならば白村江の戦い蒙古襲来まで遡れとは言わないうが近代国家として歩み始めた明治以降の、そして将来生起するであろう戦で国に殉じた英霊の慰霊・顕彰は如何にするのか？ 昭和20年夏この国は一度滅びたのかも知れない。